

有明高専だより

第17号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

Tel 09445 ③ 1011

印刷・西田印刷所

父兄の皆様へ

—父兄懇談会挨拶の要旨—

学長 轟一郎

本日は、お忙しい中、又、炎天の中をお出下さいまして有難うございました。私共、皆様の大事なお子様をお預りしています以上、立派な卒業生として社会に送り出すよう教育は勿論、職員も心を一にして頑張っています。しかし学校の教育特に鍛錬とか訓育は学校だけではできないことは皆様御承知のことじであります。だからこそお暑い中を出席していただきたものと思いま。

まず、技術科大学院の事が時々新聞にされます。御承知のように高専は狭小路だ、行きとまのとよいわれます。しかし、制度としては卒業後大学工学部三年への編入の制度があります。最近は、高専卒業生を編入学させる大学に文部省が財政的つづけをするようになり編入者数が多くなっています。しかし、高専と大学どちらの形態をとりました大学院ともうべきものをやって、高専卒業生で更に勉強したい者は、この新しい形態をとりました大学院ともういます。高専とほどのような学校であるかを知らずに入学する者が多いためはないと想え、大牟田大学院へ入学するようにした方がよいという考え方のものに文部省は昭和50年度開校をめざして準備中あります。この大学院が科学技

様の知つておられるることをありのまま周囲の方々にお知らせ下さる

よりお願いします。

寄宿舎には三百名の学生があります。教官の名前を宿直して指導していますが、私生活にわたる面

がありますので、御家庭の協力がな

ります。

3校になると思えます。

本校は昭和38年の創立ですので本年は10周年になります。学校は永遠の命をもったものであります。ましょが、10年目を迎えるにあたります。この間の関係者の非常な苦労があります。御苦勞に感謝し、今日までをもうかう見て将来どのような方向に進むべきかを考える行事の一環として11月1日に十周年の記念式を行つことにいたします。

施設につきましては、この図書館の三階の一部に49年3月から運転出来るやうな電子計算機を設置することになっています。これは情報処理教育に大変役立つことがあります。

最後に、学生が立派な卒業生となれるよう御父兄におかれても我々に御協力を下さる事をお願いいたします。

(中村 記)

七月十六日の父兄懇談会にて、「岱明寮寮生保護者会設立総会」が、図書館視聴覚教室で開催されました。

総会には、在寮生三百人のご父兄の多数をしめる百八十八人(外に委任状七十三)の方が出席され、まさに盛大であったことは、

おもに盛大であったことは、

</div

地中海沿岸の古代都市

熊大工学部建築学科教授
堀内清治

先生は熊本で建築史の講義を担当されていますが、なまでも専攻は古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の建築、都市に関する研究です。これでも度々、これまでに訪問されたことがあります。

調査団を組んで訪問される等、活躍されています。

講演は古代都市のお話になります。これまで度数、地中海沿岸の古代都市の遺跡の調査のために、古代都市の研究を通して現代文明、現代都市のあり方を探るうとするものでした。

まず、産業革命以後の二百年間の急激な科学技術の進歩をどう評価すべきか。19世紀以後の歴史觀は、ダーウィンの進化論の影響によく進化論的歴史觀といふべきもので、進歩を神格化するものであったが、しかし、いつたいた我々の現代は古代エジプトやローマ時代より進化しているのかという問題提起が始まりました。以下、先生のお話を引用していきます。

ピラミッドは人間最大のモニュメントである。ルイス、マンフォードである。

図書館だより

(7)

有明高専図書館だより
技術科学教育の基礎と
についての図書館のあり方

付され

ては、

ダーウィンの進行論の影響によ

る進化論的歴史觀といふべきもので、進歩を神格化するものであ

ったが、しかし、いつたいた我々の

現代は古代エジプトやローマ時

代より進化しているのかという問

題提起を始まりました。以下、先生

のお話を引用していきます。

ピラミッドは人間最大のモニュ

メントである。ルイス、マンフォ

ードは、現代アボロ計画に比較して、そのものであると述べています。

しかも、古代エジプト文明は、3

000年間続いた。一つの文明が

これほど長く持続したという普遍性はやさしくべきである。これが

考へると、我々の産業革命から2

00年間の文化・文明の変化は一

つのエピソードに過ぎない。古代

エジプトの思想は、自分達のやつ

のやつではないと思われる。続いて

都市論に話すます。

生命、財産を守るために城壁で

周囲を囲んだところが古代、中世

の都市であった。(つまり過去の都

市は、自然という無目的、無秩序

の空間に城壁をつくることによつ

て秩序づけられた例外的空間、安

全な空間というものであったが、

現代は都市の爆発的膨張によ

り、都市があまりそのままの形として

居直って、自然の方が例外的立場

と見えなくなり、都市は危険な空間に

なりつある。近代の都市は古代

都市以上とのものを作りえなかつた

これは、人間とは何か、生活とは

何かといった根本的な問題の考察が

欠除しているからである。現代の

都市問題を考えるのに、古代都市

を参考することの意義は大きい。現

代都市は、古代ローマのとった

減滅への道と同じ道をたどつてい

ると言える。歴史的観点から探求

するべきである。

た都市のあるべき姿を問つて、現

代文明の正当性を証明できるもの

である。

（新谷記）

一トド、現代アボロ計画に比較して、そのものであると述べています。古代エジプト文明は、3000年間続いた。一つの文明がこれほど長く持続したという普遍性はやさしくべきである。これが考へると、我々の産業革命から200年間の文化・文明の変化は一つのエピソードに過ぎない。古代エジプトの思想は、自分達のやつではないと思われる。続いて都市論に話すます。

生命を守るために城壁で周囲を囲んだところが古代、中世の都市であった。(つまり過去の都市は、自然という無目的、無秩序の空間に城壁をつくることによつて秩序づけられた例外的空間、安全な空間というものであったが、現代は都市の爆発的膨張により、都市があまりそのままの形として居直って、自然の方が例外的立場と見えなくなり、都市は危険な空間になりつある。近代の都市は古代都市以上とのものを作りえなかつたこれは、人間とは何か、生活とは何かといった根本的な問題の考察が欠除しているからである。現代の都市問題を考えるのに、古代都市を参考することの意義は大きい。現代都市は、古代ローマのとった減滅への道と同じ道をたどつていることを言える。歴史的観点から探求するべきである。

（新谷記）

（新谷記）

（新谷記）

（新谷記）

A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として
4. 高専における視聴覚教育の諸問題
5. 松江 吉川隆美
新居浜 白方 聰
6. 有明 桑田知弥
7. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
8. 鶴岡 齊藤信義
9. 有明 桑田知弥
10. 長岡 田 健一 校長
秋田 進藤俊一
11. 鶴岡 齊藤信義
12. 有明 桑田知弥
13. 研究集会開催される
14. 図書館教育部門の教育研究集会開催される
15. 昭和48年度の高等専門学校教員研究集会開催される
16. 研究集会は文部省主催のもとで、

八高専、十教官によななれる。
A 技術科学教育における一般教育、ことに人文・社会科要素のあり方。
B 高専門学校教育課程と図書館利用
C 特殊研究
1. 教育工学の発想をとられた
2. 読書指導方法の実践的研究
3. 情報処理教育の一環として

8ミリ映画

からたち慕情

名工、宗吉兵衛に命じ、藩祖立花宗茂との夫人間千代姫および夫の実父、筑前總督立花城主戸次道雪を祭る社を建てた。櫻門は日光東照宮の陽明門を、回廊は安芸の巣鴨を模して造られたと云う。神社に向う参道入口には昔の木造の欄干橋が今はコンクリートで造の太鼓橋にかけ替えられてゐる。

ごんちゃん、ごんちゃん、荷駄、ゆく。赤い、お墓のひがんばな、ひがんばな、きょうも手折りに采たわいな。ごんちゃん、ごんちゃん、血のようだ、ちょうど、あの児の年数。ごんちゃん、ごんちゃんをつけな。ひとつ摘んで、日は真夏、日は真夏。ひとつあとからまたひらく。ごんちゃん、ごんちゃんをつかむ。

ひがんばな

の朗読へと移る。

ひがんばな

かささぎ

かささぎ

かささぎ

かささぎ

かささぎ

かささぎ

かささぎ

8ミリ映画

からたち慕情

8ミリ映画

からたち慕情

本曾孫の大広間は結婚式などにも利用されている。また奥州、仙台、松島の景観をまねて造られた柳川の端の漁港風景には、毎年、冬になると數百羽のカモがシベリヤイド・アウトして、白秋の「思い出」の中のわが生立ちの一節のナレーションから映画は始まる。

「私の郷里柳川は水郷である。そつとして静かな廃市の一つである自然の風物は如何にも園的であるが、すでに柳川の街を通する

歴史ぬ聞割の匂いには、日に日に流れゆく白い封建時代の白壁が今なお懐しい影を映す。水は清

らかに流れて廃市に入り、廃れはたノスカイ（遊女）屋の人もな

き廻の下を流れ、洗濯女の白い酒布に注ぎ、水門にせかれては三

つの柳川の風物詩の紹介を終り、い

から飛んで来て越冬する。柳令二百年の松の緑から場面は

沖の端の漁港風景へと切り、前半

から飛んで来て越冬する。柳令二百年の松の緑から場面は

二集は、筑後、立花藩十二万石の城下町、水郷柳川を舞台に、白秋少年時代の遺憾のドラマをおまり、ある美しい美を描く「からたち慕情」で、「内部にはレーションを表す。

波紋をえがいてゆらめく湖面の代表的な水の構図の寒景に白抜きのクレジット、メイン、サブ、スタッフ・タイトルが次々に

「私の郷里柳川は水郷である。そつとして静かな廃市の一つである自然の風物は如何にも園的であるが、すでに柳川の街を通する

歴史ぬ聞割の匂いには、日に日に流れゆく白い封建時代の白壁が今なお懐しい影を映す。水は清

らかに流れて廃市に入り、廃れはたノスカイ（遊女）屋の人もな

き廻の下を流れ、洗濯女の白い酒布に注ぎ、水門にせかれては三

つの柳川の風物詩の紹介を終り、い

から飛んで来て越冬する。柳令二百年の松の緑から場面は

沖の端の漁港風景へと切り、前半

信濃の高原くらいしか知りませんけれど、この坂田高原は多くの人と言つぱんとうにロマンチックなつかしさです。やわらかくて、明るくて、そしてはるばるいう思いをさせながら静かに抱きつまれたという感じが致します。南につらなる山々も温和で気品のある姿です。別府の港へ入ってゆくとき、町を抱くようにつらなる山の深い波に心をひかれましたが、坂田高原である九重の山々も、その高さにして思いがけないほど親しい調和を感じさせます。均衡を保つて配置されているからでしょう。

くじゅうはしばらくの間「九重」か「久住」かで対立していた。この山も元々は宗教的に開発された山で、九重山法華院白水寺と久住山猪鹿寺二つの寺院が相対してその山号が山名に化したものだという。

私にとっては「九重」か「久住」かそんなことはどちらでもよい。いやそもそも山に親しむ人であれば、九重であっても山が変わることと同じ気持であろう。仮に「久重」が「久住」であっても「久住」が「九重」であっても山が変わることはない。それでいい。しかし、観光地として山の北と南に「九重町」と「久住町」があるだけにその利害関係は根強く残っているそ

のだから。山は山群の総称で、久住山はその主峰というところを率引きをせているが、南につらなる山々も温和で氣品のある姿です。別府の港へ入ってゆくとき、町を抱くようにつらなる山の深い波に心をひかれましたが、坂田高原である九重の山々も、その高さにして思いがけないほど親しい調和を感じさせます。均衡を保つて配置されているからでしょう。

うだ。現在では九重山は山群の総称で、久住山はその主峰といふところを率引きをせているが、南につらなる山がゴロゴロしている。特に大船山は高さといい姿といい決して久住山に勝るものも知らない。いや私などは坊ガツルからがめる大船山頂の屹立とした姿にいつも見とれているくらいだ。ただ久住山頂からの展望は実に素晴らしい。外輪山から果てしなく広がる久住高原・波野ヶ原は美事な起伏をみせ、そのまま阿蘇の五岳へと続いている。左に目を移せば、祖母・頬・大崩さらには山々が延々と連なり、大パノラマ視界さえけば外輪後方に守望の山々と九州山岳は一望のうちに、

(九重山のつづき)

しかけて来るのではないだろうか

いつもは広大なあらわがガツルのキャンプ場は花の数だけチントが咲き、立派の菜地もなく、なんと狭

く感じられるとか。一日にして九重銀座が出現する。大船山を登

山するにしても交通いや登山整理

ができるほどだ。私はこういった樂

き、立派の菜地もなく、なんと狭

く感じられるとか。一日にして

九重銀座が出現する。大船山を登

山するにしても交通いや登山整理

ができる

第10回九州地区

国立高専体育大会

7月26・27日

昭和48年8月15日 有明高専だより

第17号 -10-

7月26、27の両日、鹿児島高専の新拡張のグラウンドを中心にして隼人町一帯の各会場で熱戦が展開された。熱戻一過の炎暑のもと、本校選手諸君の明朗潤達な善戦は感動的なものがあった。特に回を重ねるに従って素直で気品のある風が定着しつつあるのが感じられてよろこびしい。

成績は柔道の団体優勝を筆頭にバスケット、バレーの準優勝、個人戦における柔道、剣道の優勝及び入賞と、めざましいものである

この結果、8月21日22日23日の、岡山における全国大会には、本校から柔道(団体、個人)、剣道(個人)が参加する。全国大会での活躍を期待したい。なお、詳しくは次の通り。

△陸上 決勝進出記録

四〇〇M 5E 成清 46秒4

六位 都城 有明 4-1-3

△柔道 団体優勝 佐世保 3-2 有明

△野球 四位 有明 5-3 都城

△バドミントン 優勝 大分 67-77 久留米

△バスケットボール 準優勝 佐世保 1-1 33 有明

△バレーボール 準優勝 佐世保 2-1 都城 有明 2-1 大分

△庭球 北九州 3-0 有明 2-1 有明

△柔道 決勝戦 都城 有明 2-1 有明

△柔道 決勝戦 都城 有明 2-1 有明

△柔道 決勝戦 鹿児島 4-0 大分

△柔道 決勝戦 鹿児島 4-0 大分